

岩手大学情報システムの管理・運営 - 第2報 -

鈴木 健之*、上野 行秀*、加治 卓磨*、吉田 等明*、三浦 守**

*岩手大学情報処理センター
〒020-8550 岩手県盛岡市上田 3-18-8
TEL : 019-621-6096
FAX : 019-621-6097
takeyuki@iwate-u.ac.jp

**岩手大学工学部情報工学科
〒020-8551 岩手県盛岡市上田 4-3-5

Management of Computer System in Iwate University -2-

Takeyuki Suzuki*, Yukihide Uwano*, Takuma Kaji*, Hitoaki Yoshida*, and Mamoru Miura**

*Iwate University Computer Center
18-8 Ueda 3, Morioka, Iwate, 020-8550 Japan
TEL : 019-621-6096
FAX : 019-621-6097
takeyuki@iwate-u.ac.jp

** Department of Computer and Information Science, Faculty of Engineering, Iwate University
3-5 Ueda 4, Morioka, Iwate, 020-8551 Japan

概要

昨今のコンピュータ社会の急速な発展にともない、大学におけるコンピュータユーザの要求が多様化している。それにともない大学の情報処理センターの業務内容も非常に多岐にわたっている。ここでは、岩手大学情報処理センターが行っている学内情報システムの管理・運営について教育面を中心に述べる。

キーワード

SCS、全学情報処理教育

1 .はじめに

現在、岩手大学情報処理センターでは、従来の業務である、計算機、ネットワーク分野の設備提供、機器管理・運用、利用案内等のユーザ支援サービスに加え、特徴的な教育支援を行っている。具体的な活動としては、

全国の情報処理センターに先駆けて行っている SCS 事業の支援、全学情報処理教育支援など幅広い教育支援活動である（図 1）。これは現在、岩手大学情報処理センターは総合情報処理センター化の前倒しとして専任教員 1 名、技官 3 名、事務官 1 名の人員を学内措置により配置していることから、このような教育支援が可能になっている。

2 . 教育支援

2 - 1 SCS

SCS (Space Collaboration System) とは、大学等の遠隔地間を通信衛星回線で結び、講義、討論会、会議等の目的で映像と音声をやりとりできるシステムである。開発・運用は、文部省国立大学共同利用機関であるメディア教育開発センター (National Institute of Multimedia Education : 略称 NIME) で行われている。本学では、平成 7 年度に VSAT 局が設置され、情報処理センターとしては全国で初めて平成 9 年度から SCS 業務を担当している。

SCS は双方向リアルタイムなセッションが可能のため、講義、研究会、会議、講演会などの目的のために利用されている。

本センターの業務内容としては、機器の管理、操作などの技術的支援を中心に技官 1 名が担当して行っている。前年度までは、SCS 利用の申込みの受付などの事務手続きも情報処理センターで行っていたが、事務の合理化に伴い、事務官 1 名を庶務部研究協力課に移したため、今年度からは事務手続き等は庶務部研究協力課が担当している（図 2）。

技術的支援の具体的な内容としては、機器の管理、セッション時のシステムの起動、機器の操作、システムの終了などを行っている。また、機器の操作方法の指導もユーザに対して行っており、積極的にユーザに開放している。さらにユーザが利用しやすい環境を提供するために、SCS のホームページや機器操作のマニュアルを作成している。ホームページでは利用申請の手順や機器操作簡易マニュアルを詳細に示した項目を作り、ユーザによりよい環境を提供している。

現状では岩手大学の SCS 利用はまだまだ少なく、SCS を十分に活用できていない。そこで今後、岩手大学情報処理センターでは、学内の既存のネットワーク環境に SCS データを配信できる環境を安価に構築する計画を進めている。これが実用化されれば、多数の教室で SCS 放送を視聴できるようになる。そして、将来的に本学情報処理センターでは情報通信システムの一元化を担い、SCS も含め、音声、映像の学内配信を見据えたマルチメディア教育として発展させていく予定である。

2 - 2 全学情報処理教育

本学情報処理センターが学内に対して行っている情報教育の一環として、各計算機、ネットワークサービスの使用法などのさまざまな講習会を開催している。パソコンの使い方からネチケット、メールソフトの設定方法など初心者向けの講習から、計算機ユーザへの計算機の利用案内、アプリケーションソフトの使用法などを扱った講習会も行っている。また、その講習会の内容を収めた VTR の貸し出しも行っている。

昨年度行われた講習会の内容は下記のとおりである。

- ・ 初心者のためのパソコン使用法について
- ・ 情報処理センター計算機 (origin2000) 使用法
- ・ 岩手大学のコンピュータ・ネットワークの使い方
- ・ 数学計算とグラフィクス表示 (Mathematica の利用法)
- ・ 統計計算とグラフィクス表示 (SAS の利用法)
- ・ パソコンによる X 環境の構築 (MI/X 利用法)
- ・ FORTRAN による並列化プログラミング入門

また、ネットワーク初心者教育用に、ネチケット、メールソフトの設定方法、ネットワークへの接続方法などを解説しているテキストを情報処理センターとして発行し、全学での情報処理教育を積極的に支援している。学内への情報提供としては、情報処理センターホームページの内容の充実を計り、計算機、ネットワーク、SCSの利用案内をはじめ、Q&A、トラブルシューティングなど、ユーザの知りたい情報を提供している。計算機の利用登録申請書類も Web ページよりダウンロードして、使える環境を整備している。

現在、岩手大学では、平成12年度から全学の共通教育の改革を行うよう準備を進めているが、その新カリキュラムの全学共通科目における情報処理教育に、情報処理センターが直接的に関わる予定である。

3．その他

地域情報化への貢献として、地域IX及び次世代インターネット研究を行っているCOZMIX研究会の中核となって運営及び支援を行っている。また、年2度岩手県のネットワーク関係者を集めるネットワーク連絡会の開催、TOPIC講演会の開催などによって、幅広い人々に対する啓蒙活動や教育に取り組んでいる。

4．おわりに

情報処理センターに対する教育活動への参加の期待は、学内外を問わず高まっている。岩手大学情報処理センターでは、これに対して、積極的に答え、中核となって動くように活動方針を定めて、実行に移している。このように総合情報処理センター化されるか否かは別として、その機能を内部努力によって実現させていくのが他に類を見ない岩手大学の特徴であり、至高の目標である。

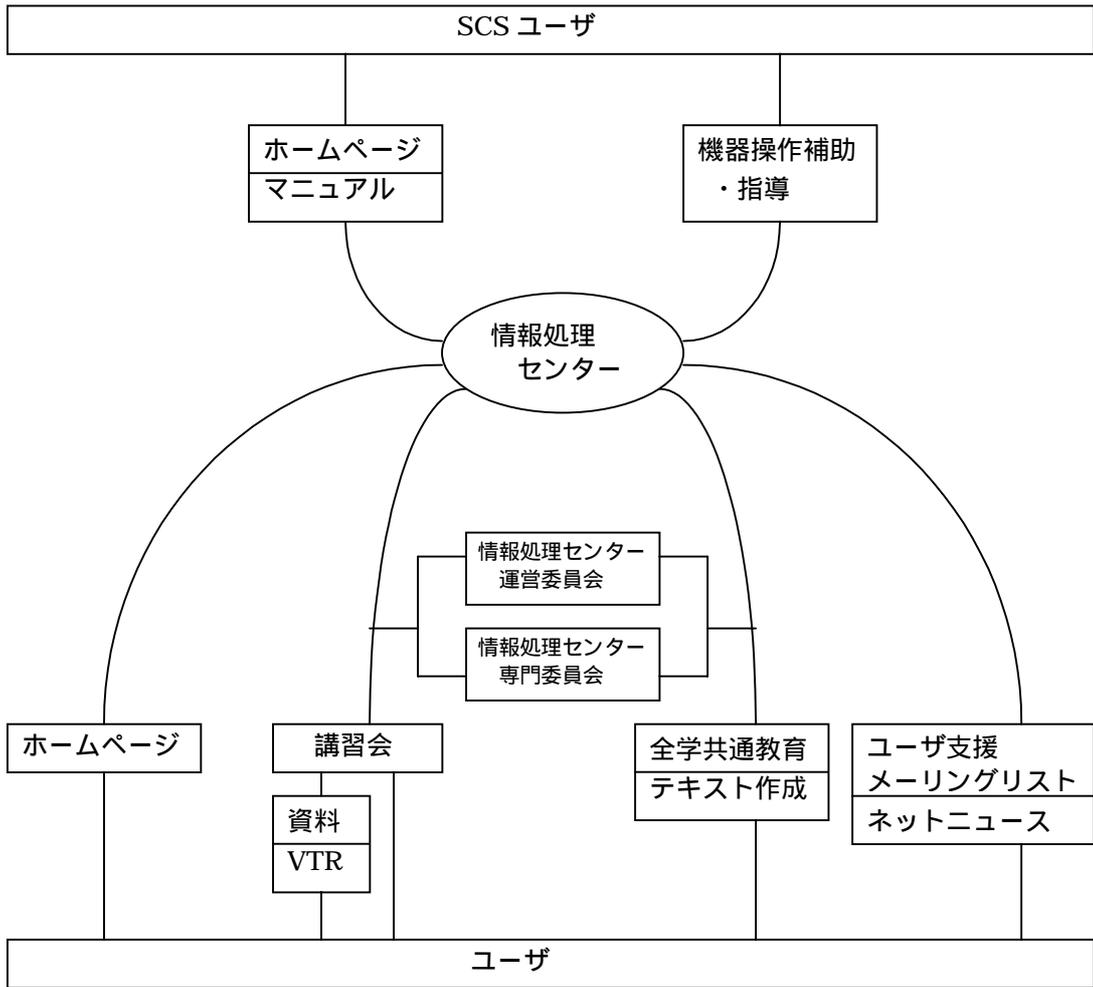


図1 情報処理センターの教育支援

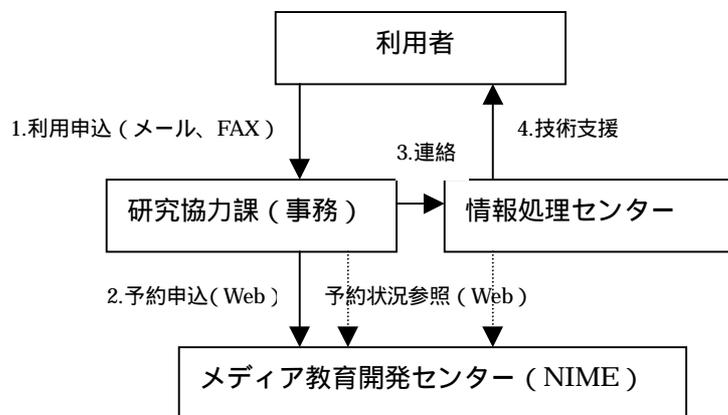


図2 SCS 利用申込みの流れ